

クラスルーム DP による高校生のシチズンシップ意識の促進

代表：角間凜子（総 3） 指導教員：曾根泰教 助成額：5 万円

本研究は、高校生自身が若者の投票率の向上のための政策について、「クラスルーム DP」という手法を用いて、政治への関心を深め、シチズンシップ意識の促進を目指すものである。ここで行う「クラスルーム DP」という手法は、「討論型世論調査」(Deliberative Polling®: DP)を、クラスルームの規模に縮小して、無作為抽出を行わない簡易版であり、高校のクラス用としては最適な方法である。

討論型世論調査とは、通常の世界論調査とは異なり、参加者に政策課題に関する討論資料の配布と十数名でのグループ討論、全体会議を複数回行い、討論の前後でアンケート調査を行い、どれだけ参加者の意見に変化が表れたかを測定する方法で、過去に日本では 7 回実施され、そのすべてに慶應義塾大学 DP 研究センターが関与してきた。「クラスルーム DP」の手法を、スタンフォード大学の Center for Deliberative Democracy の指導の下に行っているスタンフォード大学の学部学生と提携して、日本の高校生に対して行い、日本の若者の低投票率の理由や、投票率を上げるための具体的な施策などに関して議論することで、選挙制度に関する知識量の上昇や、選挙への関心の向上を目的としている。このクラスルーム DP では 40 人ほどの集団(高校の 1 クラス分)を対象に、無作為抽出を行わずに DP を行うことで、討論前後のアンケートにより、態度や意見の変化を調べることが可能で、政策の考察も行うことができる。今後もこの「クラスルーム DP」を各地で行うことにより、研究手法の発展が期待できる。

